社会福祉法人　友 愛 十 字 会

ゆうあい

2022
1・1
No.54

題字　初代総裁三笠宮崇仁親王殿下

主 な 記 事

○２０２２年を迎えて　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　総　裁　瑶子女王殿下
○障害者の暮らしを支える地域づくり　・・・・・・・・・・・・・・・　会長・理事長　蒲原　基道
○役員等の一斉改選等について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　常務理事　酒井　健治
○就任挨拶　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・世田谷更生館　館　長　田村　英治
○創立記念日　永年勤続者表彰式　港区立障害保健福祉センター　工房アミ　施設長　村松　徳治
・・港区立障害保健福祉センター　工房アミ　部　長　陸田　光昭
・・・・・・・・・・・・・・・・・・　砧ホーム　主　任　三浦　好顕
○移転から半年後の様子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・友愛荘　施設長　藤田　康子
○ひまわりの花を通じて街を元気に！　・・・・・・・・　地域連携委員会　副委員長　山本　健一
○施設紹介　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　友愛園　　砧ホーム
砧あんしんすこやかセンター　　港区立障害保健福祉センター工房アミ

○善意のかずかず

２０２２年を迎えて

社会福祉法人 友愛十字会
総　裁　瑶子女王殿下

みなさま、新年明けましておめでとうございます。

友愛十字会総裁をさせて頂いております寛仁親王の次女の瑶子でございます。

昨年もＣＯＶＩＤ－19により、みなさまとお会いする機会が結局全て無くなってしまい、一年目の時以上に、【いつになったら？】・【私に何が出来るのか？出来ることは本当にないのか？】・【何をして過ごしていることが最適なのか？良しとされるのか？】と自問自答をし、医師でもない・専門家でもない私が、誰にも迷惑をかけることなく過ごすためには、何をしていたら許されるのか？世の中からも内部からも批判などを受けることなく、日々の生活であったり、今まで行なってきたお仕事や様々な活動というものを、どのような形で行なえば出来るのか？などを考えてきましたが、周りの様々な眼や現実的なメリット・デメリット、リスク管理といった観点から、行動を起こすということは二年目であっても難しく、どんなに強い氣持ちを持っていても、出来ないことがあるのだということを改めて突きつけられました。

そのような中で２０２１年の夏、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、本来であれば日本国中で様々な競技をしているアスリートたちを会場から会場の外からテレビの前からなど色々な手段で、日本の代表を背負っている選手の皆さんや、各国から来てくれた海外の選手の皆さんを応援する！という大イベントがあったわけですが、無観客での開催となり、選手の皆さんも応援する私たちも、せっかくの自国開催なのに・・、せっかくオリンピック・パラリンピックに出場することが出来て、世界中の皆さんに自分や自分たちの成果を存分に会場で見せたい！と思われていたと思うのですが、日本の選手の皆さんは勿論のこと、海外の選手の皆さんも、今まで行われてきたオリンピック・パラリンピックの時のように、納得のいくような練習量であるとか、試合当日に向けてのモチベーションの保ちかたなども、とても難しい状況だったと思うのですが、今出来るパフォーマンスを私たちに見せて下さり、応援している私たちは沢山のパワーを貰えたのではないでしょうか？勿論、有観客の中で大きな声を出して応援をしたかったし、応援してほしかったのでは？とそれぞれが思っていたとは思いますが、暗い氣持ちが続いていた中で、多くの光を与えてくれた時間だったのではないでしょうか？

未だに完全に元の生活に戻っている状況ではありませんが、徐々に三年前の生活に戻りつつある中、二年のブランクというのは決して簡単に心と身体を取り戻せる期間ではないのが現実にありますが、今年こそはマスクをつけずに生活をしても支障がないとか、家族以外の人とご飯を食べたり会話したりすること、まずは外に出るということが、当たり前に出来るようになることを願って、そして大勢の方々と気兼ねなく楽しい時間を過ごせるようになることを願って、私の新年のご挨拶とさせて頂きます。

障害者の暮らしを支える地域づくり

社会福祉法人 友愛十字会
会長・理事長
蒲原　基道

現在、ある県の障害福祉の将来のあり方を検討する会議に参加している。この会には、障害福祉の学識者、事業者とともに、複数の障害当事者が参加しており、毎回活発な議論が行われている。

会議での当事者委員の発言は多岐にわたっており、改めて、気づかされることも多い。その中で耳に残ったものをお話ししたい。それは、「映画館や美術館にいくことが好きだ。」、「野球観戦が好きだ。ある球場はスタッフが暖かく迎えてくれるがそうでないところもある。」といった趣旨の発言である。

こうした声を聞くと、障害者の方々の暮らし全体をサポートしていくことの重要性を改めて考えさせられる。私も含めて福祉関係者は、ともすると、公的な福祉サービス、医療サービスを中心に考えがちであるが、そもそも、当事者目線で暮らし全体をみていくことが大事であり、その上で、当事者本人がやりたいことをやれるように、あるいは、その人らしい日常の暮らしが送れるように、サポートしていく必要がある。このためには、公的サービスに加えて、地域での様々な助け合いや生活を支える民間企業も含めてさまざまな地域資源を活用した地域づくりを進めていく必要があるのではないだろうか。例えば、近所のスーパーや魚屋さん、理美容店、映画館などが障害者に利用しやすいものになっていくことが必要である。もちろん、障害の状況によって、その方の活動の範囲は違ってくるかもしれないが、理念としては、その人らしい暮らしが実現できるように、企業も含めて地域の関係者が取り組んでいってほしいし、社会福祉法人の側もこれを支援していきたい。

目を認知症の分野に転じると、現在、「認知症バリアフリー企業」という取り組みが進められている。例えば、認知症の人が買い物しやすいように、「ゆっくりやり取りできるレジ」（スローレジ）を設けるスーパーなどの取り組みを、交通や金融など多くの業種でもやっていこうという取り組みである。これらも、認知症の人が自分らしく暮らすための地域をつくろうという大事な取り組みだ。

こうみてくると、身近な人々による助け合いや民間企業サイドの一定の配慮ある対応など地域づくりは、障害や高齢といった分野をこえるものである。近年、よく言われる「地域共生社会づくり」という観点からも重要な取り組みと言える。当法人としても、高齢、障害などの各種相談などを担当する「あんしんすこやかセンター」の委託を受けていることでもあり、今後とも、人々の暮らしやすい地域づくりに取り組んでいきたい。

あんすこくん

役員等の一斉改選等について

社会福祉法人友愛十字会
常務理事　酒　井　健　治

令和３年度は、経営組織のガバナンスの強化や事業運営の透明性の向上などを図るため改正された社会福祉法の施行から４年が経ち、役員等の一斉改選を定時評議員会等で行いました。

また、当法人監事を20年余にわたり務められた髙梨智弘様が８月に病気により急逝されたので、９月に監事の選任、11月に評議員選任・解任委員の選任を行いました。今年度、新たに役員等に就任いただいた方は次の通りです。

	（旧）		（新）
（６月）			
理　事	多久島　耕治	→	岩﨑　雄大
評議員	佐々木　典夫	→	小林　和弘
評議員選任・解任委員	村上　正裕	→	島村　力夫
（９月）			
監　事	髙梨　智弘	→	岩瀬　佐千世
（11月）			
評議員選任・解任委員	髙梨　智弘	→	田中　敏雄

（敬称略）

さらに、６月の定時評議員会において令和２年度決算が承認され、当法人は社会福祉法に規定する特定社会福祉法人（サービス活動収益30億円超）となり会計監査人を設置する必要があるため、複数の監査法人及び公認会計士から会計監査人として「東京さくら監査法人」を10月に選任いたしました。

最後に、髙梨智弘様には、長年たいへんお世話になり感謝を申し上げますとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

就任のご挨拶

世田谷更生館
館長　田　村　英　治

令和３年７月１日付で世田谷更生館館長、コーポ友愛ホーム長、法人本部事務局経理部長を拝命いたしました田村英治と申します。長という肩書と数の多さに大きなプレッシャーを感じておりますが、微力ながら法人の役に立てるよう頑張りますのでよろしくお願いいたします。

さて、私についてですが、一般企業を経験した後、平成８年に砧ホーム事務員として採用されました。その後、世田谷更生館などを担当した後に、平成21年10月に港区立障害保健福祉センター指定管理移行準備室に異動になり、私にとってこの異動は大きな転機となりました。

それまでの私の仕事は、事務所内で完結することが多く、利用者の皆様やご家族とふれあうことは殆どありませんでした。しかし、港区立障害保健福祉センターでは、事業の担当や港区内の関係団体が参加するお祭りを担当するなど、センターを利用される多くの方との交流があり、とても貴重な経験をさせていただいたと感謝しております。

話は変わりますが、友愛十字会は令和２年度決算でサービス活動収益計が30億円を超え特定社会福祉法人となり、会計監査人を設置することになりました。「特定」になったからと言ってすぐに利用サービスに変化が出るわけではありませんが、会計監査人を設置することで計算書類に高い信頼性が付与されるだけでなく、より一層のガバナンスの強化、財務規律の確立を確実にすることなどができます。組織が強化されることで、いずれは皆様に現在よりも質の高いサービスを提供できることに繋がると考えています。組織強化のため、また机に向い、事務作業をする時間が増えますが、友愛十字会を利用される皆様との交流も忘れず、地域からも愛される施設になるよう尽力してまいりますのでよろしくお願いいたします。

創立記念日
永年勤続者表彰式

創立記念日に伴う永年勤続者表彰式は各施設で行われました。

勤続30年を迎えて

港区立障害保健福祉センター
工房アミ
施設長　村松　徳治

この度は、永年勤続表彰をいただきましてありがとうございます。私は、平成３年４月に東京都ろうあ者更生寮（現在の東京聴覚障害者支援センター）に入職し、令和３年４月１日をもちまして友愛十字会での勤続年数が30年に達しました。思い返せば、入職当初は、ご利用者様が手話で何を話しているのか分からず、できるだけ話しかけられないように視線を逸らしていたように思います。そんな私がこれまで勤めてこられたのは、ご利用者様が粘り強く私の拙い手話もどきを理解しようと努力してくださったからだと感謝しております。

現在私が勤務する工房アミは、言語による意思表出が困難な方が多く利用されています。支援の対象となる障害は変わりましたが、これまでの経験を活かし、意思が伝えられない伝わらないことの不便さをしっかりと理解して、ご利用者様の意思の把握とそれに基づく支援の実現に向けて取り組んで参ります。

勤続20年を迎えて

港区立障害保健福祉センター
工房アミ
部長　陸田　光昭

平成13年に入職し、無事勤続20年を迎えることができました。この度、表彰いただき、ありがとうございます。また、これまで関わってくださった皆様に心から感謝申し上げます。

私は、現在港区で障害者支援に関わっています。これまでに高齢者介護施設を含む法人内の複数の事業所（たぶん５事業所ぐらい）を経験させていただきました。事業が変わると対象者もサービス内容も変わるため、その場に合った技術や知識が必要になります。私の場合は、様々な事業所経験が自身の成長につながり、今があると実感しています。入職時には、今の姿は到底想像つかず、思い返すと感慨深いものがあります。

次は30年に向けて、頑張ります。

勤続20年を迎えて

砧ホーム
主任　三浦　好顕

私が友愛十字会に就職したのは２０００年の６月、非常勤職員として社会人としての歩みをスタートさせました。入職してから間もなく、お酒の席で羽目を外し救急搬送されてしまい、当時の皆様には多大なご迷惑をお掛けいたしました。今となっては良い笑い話です。あれから20年。気が付けば人生の半分以上を友愛十字会で過ごすことが出来ております。これもひとえに、今まで私を温かく見守り、支えて下さった上司・先輩・同僚・後輩と、私に関わるすべての方々のおかげです。その結果として、20年の永年勤続表彰を頂くことが出来ました。この場をお借りして、感謝を申し上げます。

今後は、今まで私が皆様から厳しくも温かく見守って頂いたように、後輩が友愛十字会で歩んで行く道のりを、私なりに温かく見守り、支えていけるように努めてまいりたいと思います。引き続き、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

移転から半年後の様子

友愛荘
施設長　藤田康子

【1】フルオープンしました!!

新施設のオープン当初は、2階の4ユニットと3階の従来型2フロアで運営を開始しました。フルオープンするためには何より人材確保が重要な課題でしたが、順調に介護職員の採用も進み、9月には1階の1ユニット、11月にはショートステイも開始し、フルオープンすることが出来ました。

ショートステイを開始するにあたり、生活相談員が高齢者支援センターや居宅事業所に挨拶にお伺いし、新しい地域での関係構築にもつながっています。

職員採用においても新規利用者の獲得においても、施設内を案内すると「素晴らしい施設ですね。」とお褒めの言葉を頂き、旧施設では得られなかった状況を目の当たりにし、環境の持つ影響の大きさを実感しています。今後は、稼働率アップを目指して取り組んでまいります。

【2】新しい地域との交流

①南大谷町会との合同防災訓練

10月5日（火）に南大谷町会、町田消防署と移転後初めてとなる地域合同防災訓練を実施しました。南大谷町会には自主防災隊があり、隊長である防災安全担当リーダーの方は元消防署に勤務されていたということで、避難計画や経路等いろいろと助言をいただきました。専門知識のある方が身近にいてくださるのは、大変心強い限りです。

②園児が芋ほりに

本町田わかくさ保育園と未来保育CLUBの園児が芋ほりに来てくれました。地主様が以前から実施されていた近隣保育園との交流を継続させていただいています。

子供たちの元気な声が響き渡り、道行く人も立ち止まって見守っていました。大きなサツマイモがたくさん収穫できていました。「どうやって食べますか？」と聞くと、「焼き芋」という答えが多かったのですが、中には「バター醤油で食べるとおいしいよ。」と教えてくれる園児もいました。本来なら利用者様と一緒に芋ほりができれば良かったのですが、コロナ禍のため断念し、ベランダから園児たちの様子を見て楽しんでいただきました。

③イルミネーション

玄関のエントランスと中庭をイルミネーションで飾りました。両方を飾ることで、どのユニットからでも利用者様に楽しんでいただけています。

近所の方からも「きれいですね。夜道が明るくなって、防犯上も安全になりました。」と喜んでいただいています。毎年、少しずつバージョンアップしていければと思います。

「ひまわりの花を通じて街を元気に！離れていてもつながる想い！」

地域連携委員会
副委員長　山　本　健　一

昨年度末、コロナ禍の影響を受けて令和三年度も例年開催していた行事が、すべて中止と決定されました。「盆踊り大会」、「友愛ふれあい祭り」、「合同運動会」、「感謝の集い」は、法人にとって地域とのつながりや日ごろからご支援ご協力いただいている方々に想いを伝える大切な機会となっていました。地域連携委員会では、例年の行事の代わりにコロナ禍でもできることで多くの方に楽しんでいただける企画ができないか検討を始めました。

委員会で「どんな目的で企画し、どのようなコンセプトや要素があれば良いのか？」、「その具体案は？」の二つの課題について話し合いを積み重ね、「地域の相互理解の機会にする」、「利用者や地域の人に楽しんでもらう」、「密にならなくてもできる」という意見がまとまりました。具体案としては、オンラインを使ったアイデアも色々と出されましたが、今からでもすぐにできることに地域で取り組みたいとの思いから、花を咲かせようプロジェクト案を具体的に進めていくことになりました。これは行動が制限される生活の中、身近な植物に興味が出てきたり、季節の花に喜びを感じたりする委員が複数いたことから実施が決まった案でした。花は、経験や知識の有無に関わらず咲かせることができる力強い花で、見ると明るく元気になる花を探し、「ビンセントひまわり」を選びました。花を育てることを通じて日常の楽しみに気づき、そして離れていても人とのつながりが感じられるような企画にするため、法人がお世話になっている後援会の皆様や地域の各団体、ボランティアの方々百九十数名様へ七月に種をお渡しし、咲いた花を写真で撮っていただき、年末にその写真をご紹介することにしました。またＳＮＳを利用している方には、育てている過程も共有できるように、「#（ハッシュタグ）友愛砧ひまわり」で投稿することもご案内しました。

砧まちづくりセンターのひまわり

種を配付して約数週間経ったころ、ひまわりの成長をＳＮＳで投稿してくださる方や職員に成長を教えてくださる方がいらっしゃるようになりました。それは写真や言葉を通して愛情深く大切に育ててくださっている様子が感じられ、うれしさを分かち合えることも職員にとって楽しみとなっていきました。八月、九月ころになると花が咲き始め、写真があちこちから届くようになりました。手紙を添えて育てた思いや嵐の日に茎を守ったというエピソードなどをご紹介くださる方、絵手紙でお知らせくださる方もいらっしゃいました。正直なところ、花を育てることに負担感を感じられる可能性もあると思い、控えめに取り組んだ企画だったのですが、花が咲き終わった方から「我が子が成長して巣立ってしまったかのようだ」との声を聞き、生活に溶け込み、喜怒哀楽を感じながら取り組んでいただけたことに安堵しました。

ビンセントひまわりの花言葉は「愛慕」。次は、届けてくださったビンセントひまわりの写真を紹介し、離れていてもお互いを知り、想いを共有する機会を作る予定です。

43年目の私たち “これまで”と“これから”

友愛園
部長　小関英利

友愛園は、昭和53年5月に入所定員50名の重度身体障害者授産施設として開設し、15年後の平成5年には、法人の施設整備に伴い別館2階に居室を増設し、入所定員を58名としました。開設以来30年間は世田谷更生館と一体的な運営を行なっており、当時は100床を超える大型の入所施設でしたが、平成20年世田谷更生館が、障害者自立支援法に基づく新事業へ移行し入所事業を廃止しました。これに伴い、当施設は平成24年に「施設入所支援」及び「生活介護」の障害者支援施設（定員60名）として再スタートしました。

近年は、老朽化と共に開設以来の狭い居室環境から入所希望者が見学後に辞退となることが度々あり、ベッド稼働率も低下し社会資源としての役割が十分に果たせないことが大きな課題となっていました。そこで、平成31年度は重度の障害の方でも生活ができるように、利用者個人のスペースを拡大するため、定員を60名から50名に減員し、更に令和2年度には40名としました。併せて、浴室や洗面所の改修を行い、友愛園2階の作業場を新たに居室に改築し、更に居室の拡張（2人部屋を個室、4人部屋を2人部屋、8人部屋を4人部屋）を行いました。友愛荘の改築に伴いもらい受けた電動ベッドを設置することもでき、生活環境を大きく改善することができました。

生活介護事業である日中活動では、授産施設としての経験から利用者の方の作業へのニーズもあり、自主製品で収益性の高い「ビニールカードホルダー」の生産を継続していますが、事業移行に伴い作業時間を週35時間から20時間に短縮し、平成28年度には作業以外の日中活動を充実させるために、更に午前中のみの週12・5時間に短縮しました。作業以外の日中活動として、個別支援（個別ニーズに合わせた散歩や買物などの余暇活動）、映画鑑賞、カラオケ（コロナウイルス感染症対策実施の環境下での少人数での実施）、買物ツアーなどのプログラムを実施しており、今後も更なる充実を図っていきます。

当施設においても高齢・重度化への対応が課題です。障害者総合支援法の基本理念「①障害の有無にかかわらず、等しく基本的人権を享有するかけがえのない個人として尊重され ②障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会を実現し ③全ての障害者児がその身近な場所において必要な生活の支援を受け ④社会参加の機会が確保され ⑤どこで誰と生活するか選択の機会が確保され、地域社会において他の人々と共生することを妨げられず ⑥障害者児にとって生活を営む上で障壁となるような事物、制度、慣行、観念その他一切のものの除去に資する（一部略）」に基づき、これからの施設入所支援事業に何が求められているのかを、しっかりと“感じ”ながら、新たな友愛園を“つくって”、地域と“つながって”いる施設でありたいと考えています。

２０２１
ボッチャ世田谷カップに初出場
『チーム友愛』として
予選1位通過！
決勝トーナメントに進み、
見事　ベスト８！！

開催日：令和3年11月27日（土）

全国老施協ＩＣＴ実証モデル施設に選定！

砧ホーム
園長　鈴木健太

公益社団法人全国老人福祉施設協議会（以下、全国老施協）は、特別養護老人ホームを中心とする高齢者福祉施設や事業所の全国団体で、高齢者福祉・介護に関する調査研究、研修、普及啓発等の各種事業を実施している全国８ブロックから成り総勢一万の会員を擁する業界団体です。砧ホームは、全国老施協が令和３年度から４年度にかけて独自に実施する「介護ＩＣＴ実証モデル事業」において、関東ブロック約１，３００会員施設・事業所の代表となる実証モデル施設に選定されました。

本事業は、実証モデル施設が実際にＩＣＴ機器を導入し、導入前後のタイムスタディを通じた効果測定を行い、介護現場にどのような形で導入すれば効率的・効果的であるかを明らかにするものです。それにより「全国老施協版介護ＩＣＴ導入モデル」を構築し、最終的には、そのモデルを全国の介護施設に普及させ、介護現場でのＩＣＴ機器の導入による生産性向上の取り組みを日本全国に広げていくことを目指します。モデル施設は、全国老施協から最大７００万円（補助率２／３）の補助金と、コンサルティング会社からの支援を受けることができるので、砧ホームでは脈拍や呼吸数が測定できて睡眠の状態や質を読み取ることができる見守りセンサーロボットを初めてながら全床（60台）の導入・活用にチャレンジすることを計画しています。

睡眠の状態や質は、裏を返せば覚醒の状態や質に相応します。新たな機器の導入により、起床時に居室の端から離床介助するのではなく、また同じように眠っているように見えても覚醒されている方から介助に入ることで、利用者・職員の双方に負担の少ない介護を実現して、介助の効率化と共に介助中や介助後の事故の防止につながることを期待しています。更には、日中活動の工夫による昼夜逆転の改善や夜間オムツ内排泄の有無の察知、看取りケア時における旅立ちのサインや呼吸器感染症の前兆の判断、離床の早期予測による安全確保や睡眠導入剤の効果測定など、科学的なデータに基づく介護の実践により、介護の専門性と職員の遣り甲斐を高めることになるでしょう。

令和４年、東京都のモデル施設は、この春、全国のモデル施設へと成長いたします。道具の活用による介護の進化とそれによる働きやすい職場環境づくりは、砧ホームがこれまで培ってきたお家芸です。全国のモデル施設となって、広く多くの介護現場を働きやすい職場、働き甲斐のある魅力ある職場に導き、厳しさを増し続ける人材不足にも怯まない持続可能な福祉・介護の実現に、職員一同、一丸となって貢献して参ります。

東京都福祉保健財団が主催する公開見学会に今年度も東京都のモデル施設として対応した

「キヌタdeカフェ」（認知症カフェ）開催に向けて

砧あんしんすこやかセンター
センター長　山本健一

令和2年10月「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」が施行されました。この条例は、「一人ひとりの希望及び権利が尊重され、ともに安心して自分らしく暮らせるまち、せたがや」を目指すものであり、認知症の当事者が尊厳をもって地域で暮らすことができるよう、四つの重点テーマが掲げられています。①「認知症観の転換」、②「本人が発信・参加、ともにつくる」、③「みんなが『備える』『私の希望ファイル』」、④「希望と人権を大切に、暮らしやすい地域をともにつくる」です。

砧あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）は、平成25年度より認知症高齢者家族の会（ほっとサロン砧）を立ち上げ、現在では参加者同士で自主的に聞き合い、支え合うグループに成長しています。その中で、ご家族から地域の力になれることはないかという声も出てくるようになりました。また、日常業務の中で連携しているケアマネジャーの事業所や薬局などからも地域づくりに協力したいとの話をいただくこともあり、今年度新たに認知症カフェを立ち上げることを計画しました。

「認知症カフェ」は世田谷区において「認知症のご本人及びご家族が、地域の身近な場所で気軽に参加し、医療保健福祉に関する国家資格を有する者等の専門職（ケアマネジャー、看護師など）への相談や地域住民との交流ができる場所」とされていますが、砧あんしんすこやかセンターでは、それに加え、認知症のご本人、ご家族、地域住民が互いに理解し支え合える地域づくりを目標に、昨年7月から月1回の立ち上げミーティングを開始しました。主任ケアマネジャー、薬剤師、認知症在宅生活サポートセンター、社会福祉協議会といった専門職の他、家族の会のメンバーや認知症サポーター養成講座修了者などの地域住民にも話し合いに参加していただき、カフェのイメージから意見を出し合いました。「もし自分が認知症になった時あったらうれしい場所」について語り合ったところ、「本人と家族が共に出かけ、ほっとできる場所」、「時間を共有し、地域とのつながりがもてる場所」、「解放感、行動の自由さがある空間」、「『今の自分でいいのだ』と思える場所」、「学校、幼稚園、保育園と連携するなど、多世代の交流の機会もあると良い」といった声が挙がりました。

タリーズ砧世田谷通り店

開催場所は、公共の場所や福祉施設ではなく、日常生活の中で立ち寄れる場所があると良いとの意見もあり、地区内の比較的交通の便が良い店舗や企業へ相談し、タリーズ砧世田谷通り店から協力可能との返答をいただきました。11月にプレ開催することを決定し、タリーズ砧世田谷通り店でコーヒーを飲みながら店長も交えてミーティングも行いました。カフェの名前はわかりやすく「キヌタdeカフェ」。このカフェがいつか自分が認知症になっても安心して過ごせる地域づくりの一歩となるよう、そしてまた将来的には認知症のご本人が発信、参加する場所の一つとなるよう大切に育てていきたいと思います。

『新しいフロアで活動開始』

港区立障害保健福祉センター
工房アミ
施設長　村松　徳治

令和２年４月に始まった港区立障害保健福祉センターの改修工事は、新型コロナウイルスの影響を受けて工期が延び、１か月遅れて令和２年11月に工房アミの移転先である２階部分の改修工事が終了しました。移転前の工房アミは、年々増加する利用者数に伴ってセンター１階だけでは手狭となり、３階の一部居室も使い２か所に分かれて活動していました。また、新型コロナウイルス感染症拡大時期と工事期間が重なったこともあり、移転までの期間で新たに生じた「３密回避」という課題解消のため、昨年度は１階・３階・５階・７階に分かれて活動することもありました。移転後の現在は、新しく広く明るくなったフロア、一か所で全利用者（40名）、職員が交流を楽しみながら活動しています。

木のぬくもりが感じられる広々として
明るくなったフロア

新しいフロアは、「木」をイメージしたカラースキームに、温もりが感じられる居心地の良い場所で誰もが安心して過ごすという思いが込められています。その込められた思い「居心地の良い場所で安心して」を実現させるべく、これまでの多様な障害の形、特性を有する利用者が混在するクラスでの利用者統一プログラムの提供（既存のプログラムの枠に利用者をあてはめる）を変更して、利用者の障害特性や個別支援計画の目標によって、クラスを決定し、それぞれのクラスで提供するプログラムを変える（利用者の目標達成に向けて必要なプログラムを個別に提供する）ことができる新しいクラスに編成し直しました。また、プログラムの提供にあたって、利用者の意思を最大限尊重するための「意思決定支援」についても職員が話し合いや研修を重ねています。

港区立障害保健福祉センターにお立ち寄りの際は、器も中身も新しくなった工房アミをぜひご見学ください。よろしくお願いいたします。

クラスルームは作業に取り組みやすいような
環境設定（スペース、照明、音楽等）をしています

善意のかずかず

次の方々から利用者及び施設に対しましてご奉仕等を賜り、また、善意の金品のご寄贈を頂きましたことに対して、心より御礼申し上げます。
（令和3年7月1日～令和3年11月30日）

奉仕活動

○砧ホーム
まほの会

○砧デイサービスセンター
梅津　祥子
加納　敦子
川口　栄子
後藤　陽子
坂井　知
寿乃田　雅子
田村　正子
橋本　聰子
山下　康代
脇田　由美子

○砧あんしんすこやかセンター
鎌田　セツ
西多　法子
野﨑　眞喜子
山田　哲夫

寄付金

○本部
㈱BEAVERS

○友愛荘
(株)八洋

寄付物品

○本部
竹内　秀雄

○砧ホーム
竹内　秀雄

○砧デイサービスセンター
竹内　秀雄

○友愛荘
(株)セン・カネコ

（敬称略）

職員異動

（令和3年7月1日～令和3年11月30日）

○就任
世田谷更生館館長
田村　英治

○併任
法人本部事務局経理部長
コーポ友愛ホーム長
田村　英治

編集後記

新年あけましておめでとうございます。本年も社会福祉法人友愛十字会ならびに機関誌ゆうあいをご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの第6波はどうなったでしょうか？

本文を認めている今日「東京で感染7人、今年最少を更新　新型コロナ、死者なし」というニュースが流れました。

感染拡大から3年目ともなれば、そろそろウイルスとの向き合い方も学習して「共に生きる」ことが自然になっても良さそうに思います。

令和4年が、プラスの意味において、私たちの法人理念「共に生きる」を実現する年になりますように。

ゆうあい編集委員会 副委員長
砧ホーム　園長　鈴木　健太

ゆうあい　第五十四号
令和四年一月一日
発　行　社会福祉法人 友愛十字会
発行人　酒井　健治
所在地　東京都世田谷区
砧三丁目九番十一号
電話（〇三）三四一六-三一六四
http://www.yuai.or.jp

表紙写真：東京聴覚障害者支援センター　高橋秀志

みなとワークアクティ
CAKE＆COOKIE♪

「みなのはし」

ハニーマドレーヌ

チョコチップクッキー

シフォンラスク

オートミールクッキー

他多数の商品を取り揃えております。ご贈答用にギフトも承っております。

●お電話・FAXでのご注文、お問い合わせ
（電話）03－5439－8057［受付時間］9:00～17:00
（FAX）03－5439－8058
〒105－0014　東京都港区芝1－8－23　3階
港区立障害保健福祉センター　みなとワークアクティ
（就労継続支援B型事業所）　担当：柴田